

第7節 ごみの発生抑制、再使用、再生利用、焼却量、環境負荷の目標

1. 3R指標（数値目標）

循環型社会を構築するために3Rの推進に積極的に取り組む中、その成果や進捗状況を確認し、さらに効率的、効果的な事業の推進を図るために、次のとおり3Rの指標を定めています。

令和7年度末までの目標値は次のとおりです。

表2-15 3R指標

3R指標 (目指す方向)	基準年値 平成26年度	実績値 平成30年度	令和7年度目標値 (平成26年度比)
ごみの排出量 (－)	66,922 t	58,607 t	55,488t *1 (約17%削減)
資源化率 (＋)	48.2%	52.1%	53.7% *2
焼却量 (－)	37,284 t	29,992 t	15,522 t (約58%削減)
うち家庭系	25,823 t	20,038 t	15,522 t
うち事業系	11,461 t	9,954 t	0 t

*1 令和7年度の目標値は、平成29年度の実績値による発生原単位を基に推計しているため、新型コロナウイルスの影響について加味しておりません。今後、影響について留意をしながら、必要に応じて見直しを行います。

*2 紙おむつ及び事業系資源物（混合ごみ）については、現在、資源化手法が確定していないため、目標値の推計に加味していません。今後、確定した時点で目標値の見直しを行います。

2. 環境負荷の指標（数値目標）

地球温暖化防止の観点から温室効果ガスの排出量の削減について推進を図るため、焼却処理による温室効果ガス排出量を環境負荷の指標として定めています。

令和7年度末の目標値は次のとおりです。

表2-16 環境負荷の指標

環境負荷の指標 (目指す方向)	基準年値 平成26年度	実績値 平成30年度	令和7年度目標値 (平成26年度比)
温室効果ガス排出量 (－)(二酸化炭素換算)	15,799 t-CO ₂	11,812 t-CO ₂ (約25%削減)	6,028 t-CO ₂ (約62%削減)

推計の計算式：

$$\begin{aligned} \text{CO}_2\text{排出量 (t-CO}_2\text{)} &= \text{①焼却処理量 (t)} \times (1 - \text{②水分率}) \times \text{③プラスチック類比率} \times 2.77 \\ &\quad (\text{廃プラスチックの焼却に伴う排出}) \\ &\quad + \text{①焼却処理量 (t)} \times \text{全国平均合成繊維比率 (0.028)} \times 2.29 \\ &\quad (\text{合成繊維の焼却に伴う排出}) \end{aligned}$$

資料：温室効果ガス総排出量算定方法ガイドライン (Ver1.0) (平成29年3月 環境省) 計算式より

3. その他の指標（モニター指標）

新たに「1人1日当たりの家庭系ごみ排出量」、「家庭系燃やすごみ中の資源物の割合」、「事業系燃やすごみ中の資源物の割合」、「年間1人当たりごみ処理経費」を指標として、経過を把握し、計画の進捗状況を確認します。

表 2-17 その他の指標

モニター指標	基準年値 平成 26 年度	指標で測るもの
1人1日当たりの家庭系ごみ排出量（一）※1	783.8 g/人・日	2R（リデュース、リユース）の推進状況
家庭系燃やすごみ中の資源物の割合（一）	12.76% （平成 27 年度）	家庭系ごみの 分別排出の状況
事業系燃やすごみ中の資源物・ 産業廃棄物の割合（一）	24.05% （平成 27 年度）	事業系ごみの 分別排出の状況
年間1人当たり経費 （一）※2	20,537 円/人	費用対効果

※1 人口は国勢調査を基礎として推計

※2 経費は、「神奈川県一般廃棄物事業の概要」から計上